

市民交流 ひろば

市民交流ひろばは市民の皆さんと作るページです。ご意見やご感想をお寄せください。

Voice

広報よねざわに寄せられた、ご意見・ご感想を紹介します。

「あなたの出逢い応援します！」この文にぐっときました。縁があり第2の人生は誰にでも与えられるもの。私の近くにもたくさんいる若人を見ると結ばれてもいいものがそのままになっているのはもったいない。市民全体の問題である。(70代・男性)

「教えて!市立病院」のコーナーは毎号とても参考にしています。(60代・女性)

今を輝く人に聞く

まちひと インタビュー

今年で10回目となった田んぼアート。5月に植えた苗も順調に育ち、現在見頃を迎えています。今回は「田んぼアート米づくり体験事業推進協議会」の会長・蔦幹夫さんにお話をお聞きしました。※P14では稲刈り体験の参加者を募集しているのでお見逃しなく!

■始まったきっかけは?

農業の大切さを知ることはもちろん、稲の成長を目で見て、田んぼを楽しんでほしいとの思いから始まりました。現在では「風物詩」として定着し、この田んぼアートを楽しみに小野川温泉を訪れるお客様もたくさんいます。

■田んぼアートってどうやって作るの?

最初に原画を準備し、遠近法を用いて下絵を作ります。下絵ができれば、スタッフが計測しながら田んぼに杭を立て、植える稲の種類ごとにテープで区切っていきます。この作業が肝心なんです。数センチでも間違ってしまうと、思い描いた絵柄にはなりません。そして、300人以上の皆さんの手で田植えをし、アートが完成します。



蔦 幹夫 さん
(小野川町)

■田んぼアートの楽しみ方を教えてください!

何と言ってもその迫力が見どころ。遠近法を用いているので、絵柄が浮き上がるように見えるんですよ。また、季節によって様々な表情を見せるのも魅力の一つ。6月の植えたばかり頃は淡い色、7月になると稲の色が出て鮮やかになります。8月になるとコントラストが強くなり、まるで油絵のように。そして稲刈りが終わっても稲株の色の違いで絵柄が分かるんです。いつ来ても、何度見ても楽しめますよ。

今月のクイズ

7月5日の「ファーム戦 楽天VS.巨人」が開催された球場は? 正解者の中から抽選で1人に「**楽天選手の直筆サインボード**」をプレゼントします。

- ①上杉スタジアム ②宮城球場 ③皆川球場
- 応募締切/8月14日(金) ※当日消印有効
- 当選者発表/9月1日号
- 応募方法/はがきにクイズの答え、住所、氏名、年齢、

電話番号、広報の感想を書いてお送りください。

- 宛先/〒992-8501 金池5丁目2-25 秘書広報課広報広聴係
- 7月1日号の正解と当選者/正解: ①出逢い
当選者: 伊藤真理さん(大町1丁目)、伊藤由雄さん(大字花沢)、高木京子さん(春日4丁目)



ヒントは
P8をご覧ください

自由の風

市長コラム

七月九日の早朝、山上地区赤崩集落の無人販売「まごころ直売所」を訪れてみました。集落のまん中を通っている道路に面して、一坪ちよつとの建物があり、中には山菜、野菜がきれいに袋に入れられ百円均一で並んでいました。

道路向かいで仲良く畑仕事をされているご夫婦に話を伺いました。4年前に生まれた直売所の出品登録者は十五、六人で、常に出品するのは七人ほど。六月中旬から十一月中旬までの期間、朝五時から品物が揃い始めるのですが、その時刻を待っているお客様もいて、出品に来る人と買いに来る人との挨拶、会話が楽しみとのこと。笹野からおいでになった方は「新鮮で美味しくて、安い。その上、地域の人々が親切だ」とベタ誉めでした。確かに、通町からやってこられた方は筍の調理方法を懇切丁寧に教えて貰っていました。

この直売所運営のために「赤崩自治会」が誕生し、若い人たちも十二月に慰労会を兼ねた収穫祭を催すべく、そば畑を作り始めたそうです。国が提唱する「地方創生」というのは、結局こういうことから始まるのだと強く思いました。ただ残念なことにお金を払わない人、余計に持ってゆく人もいるとか。米沢は昔から棒杭市の伝統がある「愛と義のまち」ですから、不心得をしている方は自分の良心と対話願います。

安部 三十郎